

ノリ養殖経過

坂口 研一

目的

三重県の黒ノリ養殖業の安定化を図るために、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が要求されている。そこでノリ漁場栄養塩調査、およびプランクトン調査を行いその情報を発信することにより生産者に対して現在の漁場の様子や今後の対応策についての情報を提供する。

方法

9月から3月までのノリ漁期中にノリ漁場栄養塩調査とプランクトン調査を実施した。栄養塩調査は伊勢湾のノリ漁場のうち、主漁場となる18測点の栄養塩とプランクトン発生状況を毎週水曜日に調査し、同日中に調査結果をFAXにより県内の関連漁協に送付した。分析項目は水温、塩分、無機態窒素量、リン酸態リン量、プランクトン数である。これらの詳細については関連報文に報告したので、ここには概要を記載する。

結果

1. 気象要因の特徴

10月の気温は平年に比べて高めで推移したが11月、12月は平年並みで推移した。1月から2月にかけては高めで推移し、3月はかなり高めであった。

降水量は10月と1月は平年比べて多かったが、その他の月は変動の幅はあるものの全体的には平年並であった。日照時間は11月と3月がかなり多かったがその他の月は平年並みで推移した。

2. 海況要因の特徴

白子地先の水温は陸上採苗が始まった9月後半は平年より高めであったが、10月から12月初旬にかけておおむね平年並みで推移した。12月中旬から1月上旬にかけて1~2 低めとなったが、その後は平年並みで推移し、3月はやや高めであった。

白子地先の比重は9月は平年より高めでその後は平年並みで推移した。河口漁場においては一時的に比重の低下がみられたが、全体的には安定して推移した。

溶存態無機窒素 (DIN) は9月下旬には $50 \mu\text{g}/\ell$ 以下の漁場が多かったが、10月以降回復し、11月下旬と2月下旬にDINの低下がみられたが、漁期をとおして高い水準であった。リン酸態リンは9月下旬と2月下旬に低い状態となったが、それ以外は漁期をとおして十分な水準で推移した。

プランクトンは11月下旬と2月下旬に発生し、栄養塩低下を招いたが、いずれも短期間で解消され深刻な色落ちはみられなかった。

3. ノリ養殖経過

糸状体培養は、順調に行われ胞子嚢の形成や成熟は良好であった。

9月下旬の水温は平年に比べ高めに推移し採苗が心配されたが10月に入り水温が低下し、陸上採苗および海上採苗は順調に終了した。しかし、10月10日の低気圧による暴風雨のため、支柱がおれるなどの被害がでた。育苗期間中はプランクトンの発生などによる栄養塩類の減少もみられたが、短期間で解消しおおむね順調に生育した。

冷凍入庫は早いところで10月末から、大部分で11月上旬が入庫のピークとなり、11月中旬までにほぼ終了した。秋芽網の本張りは早いところで11月上旬から開始し、11月下旬から摘採が本格化した。秋芽網生産期は栄養塩量が低い状態で継続することがなかったことから色目はおおむね良好であった。病症害は赤ぐされ病やバリカン症がみられたが、重症には到らず順調に生産が行われた。

冷凍網の出庫は12月中旬からはじまり、多くの地区では1月上旬から摘採を開始した。1月21日の悪天候のため中勢以北では一部で施設が破損する被害がでたが数日で復旧し生産が再開された。冷凍網生産期にはプランクトンの発生が少なく、栄養塩レベルが全般的には例年になく高い水準で推移した。2月下旬に一時プランクトンが発生し、軽度の色落ちが発生したが一時的なもので解消された。漁期をとおしてみると全体的に順調に生産が行われた。

今漁期の三重県の生産枚数は約4億7千500万枚で生産枚数の多い年であった。単価は9.62円/枚で生産金額

は45億7千4百万円で、最近では最も高い生産額となった。

関連報文

三重県科学技術振興センター水産研究部 鈴鹿水産研究室・三重県黒のり養殖研究会・三重県漁業協同組合連合会：平成13年度ノリ情報総集編